

# 令和4年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	令和4年11月1日(火)
調査先 自治体名等	秋田県能代市
調査項目	「洋上風力発電事業と地域経済について」
調査目的	本市も進めている洋上風力発電事業において国内で初めて商業化がスタートする能代市の取組みと課題を調査する。併せて洋上風力発電事業の地域経済に与える経済効果についても調査する。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:49,895人 (R4.9.1現在) 行政面積:426.95km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 能代市は秋田県北西部に位置し、県都秋田市から約70km離れており伊達市とほぼ同じ面積を有し世界自然遺産・白神山地の山並みを形成するブナの森や奥羽山脈に源を発する1級河川米代川が市域の中央を東西に流れ日本海に注ぎ、下流部には能代平野が広がり、その両側は、広大な台地が広がり大部分が農地として活用されており、主な産業は農林水産業の1次産業。H5年に東北電力・能代火力発電所が営業運転を開始し翌年2号機が稼働R2年には3号機が運転開始した。3基とも石炭火力発電であり木質バイオマス(林地残材)の混焼を行っている。再生可能エネルギーの導入を目指し、H13年からは能代風力発電所(600KW×24基)の運転開始、H25年からは大型の風力発電施設の導入によりH28年からは県内最大規模の風力発電所として運転開始。R4年には能代港湾区域内の洋上風力発電所を国内初の商業化運転開始しR7年からは能代市及び周辺にまたがる陸上風力発電所の運転、R10年以降には一般海域における洋上風力発電所の運転開始を目指しており、現在でも風力発電62,660KW、太陽光発電10,153KW、バイオマス発電3,990KWと再生可能エネルギーのまちづくりを進めている。視察した港湾区域内における能代洋上風力発電事業は総事業費で約1,000億程度、丸紅・大林組・東北電力・コスモエコパワーほかのSPCによって84,000KW(4,200KW×20基)の発電所規模となっている。地域への波及効果としては今回視察の能代港及び秋田港の港湾内洋上風力は経済波及効果約270億円、雇用創出効果約2,650人となっており、R10年以降の一般海域での洋上風力では経済波及効果約3,550億円、雇用創出効果約35,000人とのこと。地元企業も市内建設会社など8社で風力建設に関する工事を連携して受注するため協議会を設立。能代市は新たに風力発電メンテナンス人材育成支援事業補助金や能代市次世代エネルギースクール開校など技術人材育成や地元定住対策にも取り組む。特に洋上風力は漁業者の理解が重要だが港湾内の施設見回りなどを漁業者に委託しており共存共栄を図っている。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	風の松原自然エネルギーの風車「風の松原風力発電所」の総事業費160億円のうち2億円を市民ファンドに充て、利回り年4%で5年後償還で2,000口募集したところ3.6倍の7,250口の応募があり市民の関心と呼んだとのことであり風力発電に対する市民の理解促進につながったと推察。地域や漁業者との協調・共生策として20年間分の売電収入の0.5%を目途に基金への出捐金が求められている。今後の再エネ海域利用法における促進区域での洋上風力発電への先鞭をつける事業として今回の商業運転事業が地域活性化につながられるか注視していきたい。